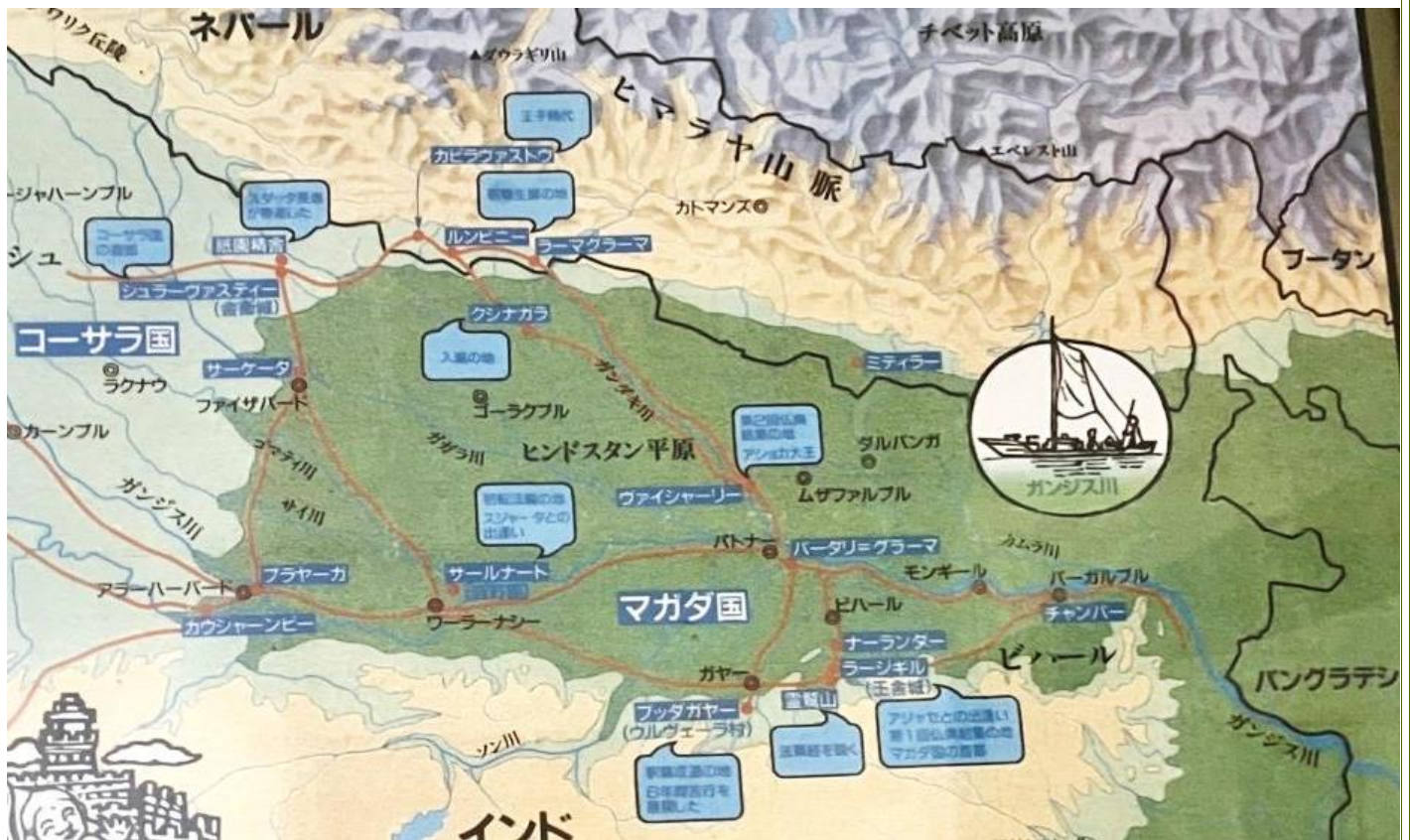


# 第十五回茶話会 『仏教四大聖地』

2024/03/29



**ブッダ** 生没年は諸説多く有り

生誕 BC.463(中村元説)

成道 BC.428(35歳)

遷化 BC.383(80歳)

**アショーカ王** マウリヤ朝 3代目皇帝

誕生 BC.304

在位 BC.268- BC.232

**玄奘三蔵**

生没年 602-664年

西遊 629-645年



## 【ブッダ】

ブッダはネパールのルンビニーで生まれた後、成道後にはインド北東部を歩き布教をされました。小国の集まりの戦国時代が続くインドにおいて、当時の王から精舎の寄進を受け、修行と布教をされていた。

## 【アショーカ王】

ブッダの涅槃からおよそ 100 年後、現在のインドよりも広大な地域を統一したマウリヤ朝アショーカ王は、生涯 1 度にしてインドの歴史上苛烈とされるカリング戦争を経験し、心を痛み仏教を崇拝するようになる。ブッダ由来の地を巡礼し、誕生の地にはマーカーストーンを設置、それぞれの聖地に石柱を建て、

仏教を支援して聖地には僧院が建築された。柱は 15 本現存し、全部で 30 本ほどあったとされる。

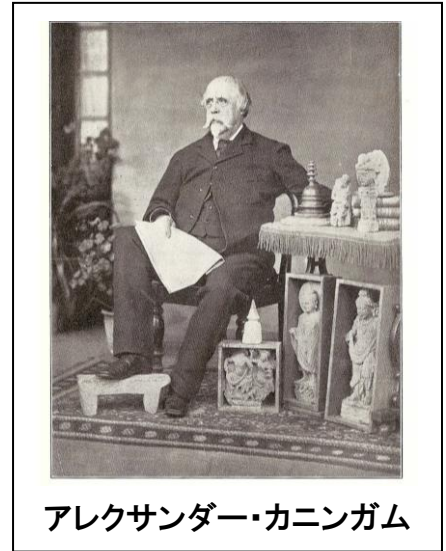
【三蔵法師】

ブッダの遷化から 1100 年となる 7 世紀、玄奘三蔵は仏典を求めてインドを練り歩いた。当時の様子を記した『大唐西域記』は 19 世紀のカニンガムによる聖地発掘に最も貢献することとなった。

【アレクサンダー・カニンガム】(1814-1893)

イギリス陸軍の技術者、その後インドの歴史と考古学に興味を持つ。イギリス占領下のインドで政府の考古学調査官となり、のちにインド考古学調査局を設立する。

1861 年クシナガラ 1878 年ブッダガヤ 1893 年サルナートを発掘



アレクサンダー・カニンガム

## ブッダ誕生の地 ルンビニ



マヤデヴィ寺院とアショーカ王の石柱



マーカーストーン

### ○アショーカ王の石柱(ルンビニ)

BC.249 年頃 アショーカ王が訪れ建てられた。

・石柱に刻まれるアショーカ王の詔勅文

『神々に愛せられ温容ある王は、即位灌頂ののち 20 年を経て、みずからここに来て祭りを行なった。ここでブッダ・シャカムニは生まれたもうたからである。そうして石柵をつくり、石柱を建てさせた。世尊はここで生まれたもうた。ルンミニ村は税金を免除せられ、またく生産の 8 分の 1 を払うものとされる。』

【発掘】1896 年

ネパール軍司令官カドガ將軍(1861-1921)と

インド考古学調査局のドイツ人考古学者フューラー(1853-1930)



左:フューラー

右:カドガ將軍



1997年 世界遺産に登録される

## ○マーカーストーン

【発掘】1995年

近郊では取れない石が敷かれている事や、後世に降誕の石像が同じ場所に供えられている事から、アショーカ王が仏陀生誕のまさにその場所として石を設置したとされている。

## ○マヤデヴィ寺院

生誕の聖地の中心

BC.6～5世紀の木造構造物の上に、BC.3世紀のアショーカ王時代のレンガ造りの僧院がある。

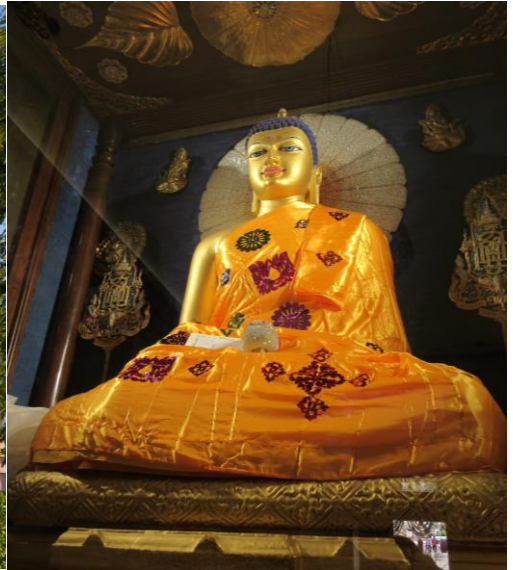
マーカーストーンと降誕の彫刻が中央にあり、僧院は東西5列、南北3列の15部屋と、外壁に囲まれた周回通路で構成されている。

外観はユネスコの指示により、遺跡を保護するために建築されたもの。

## ブッダ成道の地 ブッダガヤ



大菩提寺(マハーボディ寺院)



塔内 本尊

## ○大菩提寺と『菩提樹』の歴史

BC.428年頃 ブッダが『菩提樹』の樹のもとで成道された(35歳)

BC.254年頃 アショーカ王が『菩提樹』に参詣し、供養として仏塔と石柱、砂岩の玉座が設置される

BC.3世紀 【樹】アショーカ王の王妃が伐採、王により再生し、石垣を作り、樹を守った

【樹】アショーカ王の娘がセイロンに『菩提樹』の南枝を携えて植樹

450年頃 Sado王により修復

6世紀	【樹】シャシャーンカ王により伐採され、プールナヴァルマン王により再生	
9-10世紀	大菩提寺の本尊が黒石の像として作仏される	
1035-79年の間、1198年にそれぞれ寺院が修復されたとの記録あり		続く↓
13世紀	イスラム軍によりインド仏教の排斥、大菩提寺は土砂の中に隠されたとされる	
1878年	イギリス人考古学者アレキサンダー・カニンガムにより発掘調査	
1880年	大菩提寺の発掘	
1881年	金剛宝座の発掘	
1884年	僧院復元	
1956年	インド政府による大規模修復、ビルマにより本尊が金に修復される	
2002年	世界遺産に登録	

## ○マハーボディ寺院(大菩提寺)

紀元前3世紀のアショーカ時代の塔から幾度の修復や拡張を経て、現在は高さ52m、底辺15m四方の塔である。古来から仏塔として崇められており、仏教徒だけでなくヒンドゥー教徒もお参りに来ている。ドライラマ法王が冬季に毎年来ることもあり、仏教聖地の中で最も盛んで、祈りの多い場所である。



『菩提樹』



金剛宝座

## ○金剛宝座

伝説によればアショーカ王は寺院の設立と共に、この場所に悟りの座を示す石と、4本の柱に支えられた天蓋を備えたダイヤモンドの玉座を作ったそうである。19世紀の発掘時は砂岩の台座のみであった。

玄奘三蔵が訪れた7世紀には、この金剛宝座を中心として諸王、大臣、富豪、長者が競って寺院や仏塔を建設していた。中心部は金剛で形作られていたと記述があり、煌びやかに供養されていたと思われる。また、玄奘三蔵が来訪時の菩提樹は悪王に度々伐採され、高さ15mも無かったと記載がある。



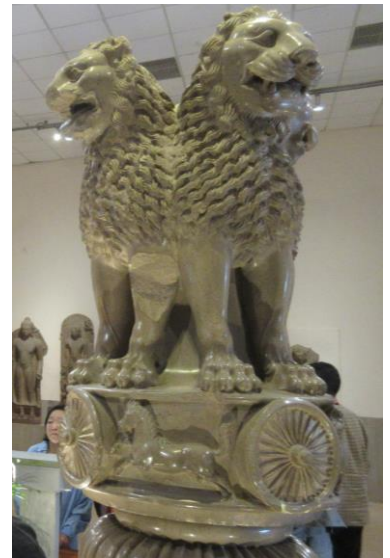
# ブツダ初転法輪の地 サルナート（鹿野苑）

## ○アショーカ王の石柱

【発掘】 1893年アレクサンダー・カニンガムにより発掘

BC.3世紀後半に作られた。15m超の一枚岩の砂岩で出来た石柱。先細りの柱で、底部直径は71cm、上部は56cmとなっている。この柱の天辺に乗っていた動物の像が最も綺麗な状態で現存し、サルナート博物館に安置されている。この四頭獅子は国章に指定され、インドルピー紙幣及び硬貨に描かれている。

石柱には仏教集団の分裂を戒める文面がある。（第二結集における根本分裂を戒めるものであるという説がある）



ダメークストウーパと僧院の遺跡



石柱

## ○ダメークストウーパと僧院の遺跡

ダメークストウーパは4世紀に建設され、6度の拡張を経ている。現在の高さは43.6m、直径36.6m。僧院は当時の人が、ブツダが700年前に瞑想をした場所であると、巨大な寺院を建設したものの。現在は四辺それぞれ18.29mの分厚い基礎部分が残っているが、玄奘三蔵が7世紀に訪れた時はココに60mの精舎が高くそびえていたと記している。

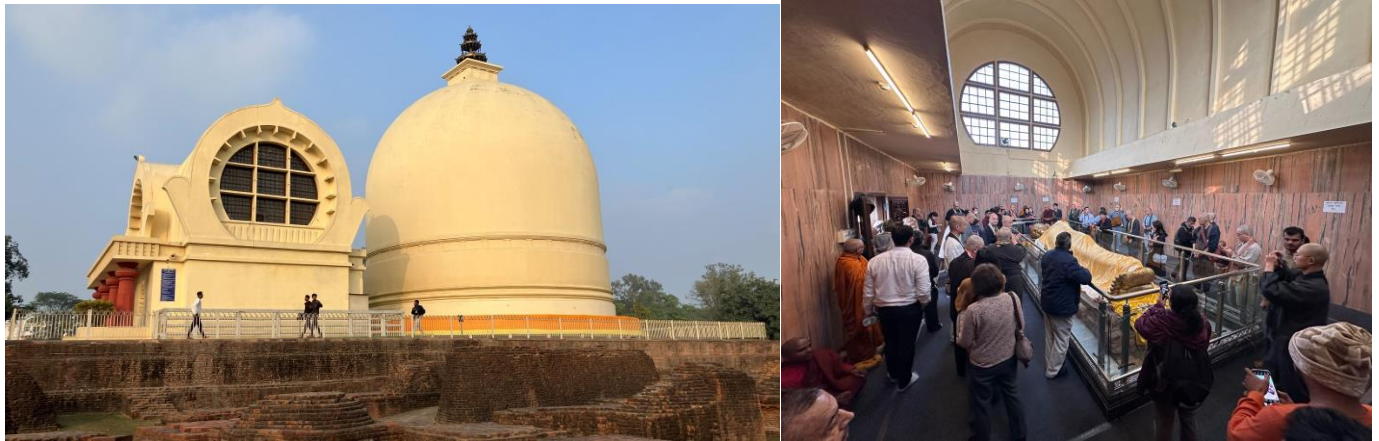
当時はナーランダ大学、オーダンプリ大僧院、サルナート大僧院、ヴィクラマシーラ大学 これら4つの場所が仏教の盛んで重要な拠点であり、修行や学問が盛んなインド北東部の拠点であった。玄奘三蔵がサルナート大僧院に訪れた時は1500人の僧侶が住み学んでいた。

しかし12世紀後半にイスラムの侵略によって4つの拠点や聖地の遺跡はすべて失われている。荒廃した状態でダメークストウーパは現存していた。1893年に本格的に発掘調査と修復をされて現在に至る。

# ブッダ涅槃の地 クシナガラ

【発掘】1861年 アレキサンダー・カニンガムにより発掘

## ○涅槃寺と涅槃像、仏塔



この地にある破壊された仏塔や遺跡は像の装飾などから5世紀のものと考えられる。

寺院は13世紀の荒廃から500年以上の時が経ち、19世紀には茨の森に囲まれて高さ12mのレンガの山で覆われていた。カニンガムがブッダ涅槃の地であると証明した時、寺院の発掘調査が行なわれた。多数のレンガ片から、アーチ状の屋根を持っていた事が指し示され、今の寺院に再現されている。

釈迦涅槃像は1876年に河底より発掘。イスラム軍から守るために12世紀に沈めたとされる。6.1mの1枚岩の赤砂石を彫刻した5世紀の仏像。1956年に大菩提寺と同じように、仏滅2500年を祈念して修復され金箔が施された、現在の寺院もその年にインド政府が建設した物である。

涅槃寺の後ろには大きな仏塔(=ストウーパ)があり、涅槃に寄り添う仏弟子の塔であるといわれている。仏塔の地下4mには縁起の法を説いたお経が刻まれた銅板(5世紀)、更に地下10mには1世紀の仏像が1927年に発掘され、同年に仏塔はビルマの信者の寄進で修復された。

## ○仏教三大聖樹

クシナガラの涅槃寺前には沙羅の樹、菩提樹の樹、無憂樹(アショーカツリー)が植えられている。



菩提樹:アシヴァッタの樹(インドボダイジュ)  
インド古来の民間信仰においても「神々の住処」であるとされ、不死の観察(=精神の境地)を意味する言葉であり、霊樹とされた。ブッダがこの樹の下で悟ったことで、その後はブッダの樹として名前が菩提樹となった。

引用文献:『ゴータマ・ブッダ-釈尊の生涯-』著:中村元

ネパール・インド政府観光ページ及び現地看板 等